

令和元年度沖縄県振興審議会 第4回文化観光スポーツ部会議事録

1 日 時 令和元年10月29日(木) 15:00~17:04

2 場 所 沖縄県庁6F特別第2会議室

出席者

【部会委員】

部会長	下地 芳郎	沖縄観光コンベンションビューロー会長
副部会長	平田 大一	沖縄文化芸術振興アドバイザー
	小島 博子	一般社団法人日本旅行業協会沖縄支部副支部長
	東 良 和	沖縄ツーリスト株式会社代表取締役会長
	佐野 景子	独立行政法人国際協力機構沖縄センター所長
	ミゲール・ダルス	沖縄空手案内センタースタッフ・月刊「沖縄空手通信」編集者
	佐久本嗣男	公益財団法人沖縄体育協会理事長
	原田 宗彦	一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構会長
	大 城 學	岐阜女子大学沖縄サテライト校教授

(欠席)

前田 裕子	公益財団法人名護市観光協会理事長
當山 智士	一般社団法人沖縄県ホテル協会会長
與那嶺善道	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団理事長
渡嘉敷通之	公益財団法人沖縄体育協会専務理事
石原 端子	沖縄大学人文学部福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻准教授
富田めぐみ	合同会社琉球芸能大使館代表

【事務局等】

文化観光スポーツ部：新垣文化観光スポーツ部長、山川空手振興課長
加賀谷MICE推進課長、金村スポーツ振興課長
仲里班長(観光政策課)

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

ハイサイ、グスーヨー チュー ウガナビラ。これから沖縄県振興審議会第4回文化観光スポーツ部会を開催いたします。

開催の前に、御報告をさせていただきます。

本日、名護市観光協会理事長の前田委員、沖縄県ホテル協会会長の當山委員、沖縄県国際交流・人材育成財団理事長の與那嶺委員、沖縄県体育協会専務理事の渡嘉敷委員、沖縄大学人文学部准教授の石原委員、琉球芸能大使館代表の富田委員におかれましては、本日も都合により御欠席となっておりますので、御報告いたします。

初めに、配付資料の御確認をお願いいたします。お手元の次第にあります配付資料一覧を御確認ください。2枚目に配付資料一覧がございます。

本日の次第と配席図、出席者名簿、これまでにお配りしております総点検報告書の素案冊子と資料1から資料10に関しましては、これまでに配付をしております分になります。本日も新たに配付させていただいている資料につきましては、資料11以下となっております。

資料11:令和元年度沖縄県振興審議会 文化観光スポーツ部会議事要旨(10月29日更新)。

資料12:沖縄21世紀ビジョン基本計画等検証シートについて。

(空手発祥の地・沖縄、戦略的なMICE振興)。

資料13:沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)等総点検報告書(素案)

文化観光スポーツ部会 第3章 所掌箇所一覧。

資料14:沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)等総点検報告書(素案)

文化スポーツ部会 第3章 所掌本文(抜粋)。

(空手発祥の地・沖縄、戦略的なMICE振興)。

それから、資料番号はついてございませんが、文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)について、こちらも本日の議題の中で御説明をさせていただきます。

以上、資料の御不足等ございましたら、事務局までお声かけいただければと思います。

第3回の部会に引き続きまして、本日第4回の部会につきましても総点検報告書(素案)の第3章を中心に御審議いただきたいと存じます。

第3章は、平成24年度から始まる現計画、いわゆる21世紀ビジョン基本計画の中で実施してまいりました文化観光スポーツ部のそれぞれの基本施策の推進による成果とその対策が今回の審議テーマとなります。

本日の審議テーマの内容としましては、1つ目は空手発祥の地・沖縄、2つ目は戦略的なMICE振興の2テーマとなります。

それでは、議事に移りますが、沖縄県振興審議会運営要領第3条第3項の規定によりまして、部会長が会務を総理することとなっておりますので、以降の議事進行につきまして

は下地部会長にお願いしたいと思います。

下地会長、よろしくお願いいたします。

【下地部会長】

皆さん、こんにちは。

それでは、ただいまから会を振興していきたいと思います。もう第4回目になりましたので、これまでの部分と少しテーマが違ってきます。

きょうはお待たせしました。空手を中心にされるということで、佐久本委員はきょうは一番先に来られました。ありがとうございます。

【佐久本専門委員】

はい。燃えています。たくさんございますから。

【下地部会長】

本日の審議事項として次第を見ていただければ、①沖縄21世紀ビジョン基本計画の総点検第3章となっております。ご覧のとおり審議テーマが空手発祥の地・沖縄と、もう1つこれも沖縄にとって大事なテーマですが、戦略的なM I C E振興の2つをテーマとして審議をしたいと思っております。

それでは、事務局から審議の前に説明をお願いいたします。

1. 沖縄県振興審議会 第4回文化観光スポーツ部会

①沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)総点検報告書(素案)

第3章 基本施策の推進による成果と課題及びその対策(文化観光スポーツ部会関連)

(1)空手発祥の地・沖縄

【事務局 山川空手振興課長】

ハイサイ、グスーヨー チュー ウガナビラ。ワンネー ウチナー 県庁空手振興課長又山川 哲男 ヤイビーン。ユタサルグトゥ ウヌゲーサビラ(こんにちは。私は県庁空手振興課長の山川 哲男です。よろしくお願いいたします)。

始めてまいりたいと思います。右上に資料14と書かれている資料をご覧ください。右下のページ番号で進めていきたいと考えております。

めくっていただきまして、4ページ。目次でございます。真ん中の第3章の基本施策の推進による成果と課題及びその対策。1の(4)伝統文化保全・継承及び新たな文化の創造で空手は取りまとめを行わせていただきました。

めくっていただきまして、8ページ。赤枠の中が空手になってございます。かいつまん

で説明をしていきます。

まず、「国内外における沖縄文化の発信力の強化については、沖縄空手」とございますが、我々は海外に向けて伝統空手古武道というものはこういうものだよということで、指導者を派遣する事業を行ってまいりました。これまでロシア、ドイツ、スペイン、イギリス、アメリカ、オーストラリア、ベルギー、フランス、ポルトガルなどヨーロッパを中心に行っています。それはなぜかといいますと、格闘王国・ヨーロッパ、欧州ということがございますので、そちらを中心に行ってまいりました。

また、そこでPRした結果、沖縄に行ってさらに深めた技を磨きたい方々のために、空手の国際セミナーと銘打っているのですが、これも合わせて実施をしております。

そのほか、空手の日10月25日、去った日曜日にも国際通りで約2,100人による集団演武を行いましたけれども、これも鋭意続けております。

トピックスといたしましては、平成28年10月、これは空手振興課ができた最初の年だったのですが、どうせやるなら世界記録をねらってみよう、ギネスをねらってみようという機運を高めまして、約4,200人による集団演武を行いました。国際通りのテンプス館前から県庁前の北口交差点まで空手着を着た方々が埋め尽くす中で、結果といたしましては3,973人という世界記録を打ち立てることができました。

それまでの記録は、インドが800人という数字を持っていました。140万人の沖縄県と十何億人というインドで、この記録はすごいですよね。その後インドが発奮いたしまして、つい最近5,000人ということで世界記録を更新しております。ウチナンチュ、マキティーン、ナイピランドー(負けてはいけませんよ)という言葉がありますから、世界のウチナンチュ大会が3年後ぐらいに開催される運びになるかと思うのですが、そのとき前回大会では7,000人のウチナンチュ系統が集まったという話でしたので、国内外の空手家と世界のウチナンチュとミックスして、この5,000人は絶対超えてやろうと今考えております。

では、本題に入っていきます。

平成29年の3月には、沖縄空手会館をオープンいたしました。この沖縄空手会館が沖縄空手の拠点としてオープンということがかなり大きな意味を持ってまいります。つまり、世界の空手愛好家が一度は訪れてみたい場所ができたというこの意義は、かなり重要であると考えております。

また、その年の6月からは、沖縄空手案内センターを会館内に設置いたしました。本日、委員として参加しておりますミゲール・ダルーズさんも、ここの主要メンバーとして活躍

をしていただいています。当然、空手というのは世界194カ国、1億3,000万人という巨大市場を形成しておりますので、日本語だけではなく、英語、フランス語、スペイン語、ホームページ上は中国語やロシア語というように多言語で情報発信をしております。

続いて、一番下はこれらの取り組みです。

基準値の80人から平成29年度には6,453人ということで、かなり伸びたように見えております。これは、空手の成果指標を国内外からの来訪者数にしようという話が26年か27年ぐらいに起こったんですね。それで、ビジョンが始まった平成24年を基準値といたしますので、平成25年度の国際セミナーに申し込んだ80人を一応の基準値として置こうということで置いたものになります。当然こんな小さな数字ではありません。平成24年度でも何千人という方々が沖縄を訪れていたであろうと推察をしております。

推察をいたしまして、平成29年度の実績は6,453人ですが、我々はこれかなり低い数字だと思っております。

統計の取り方といたしまして、沖縄県主催の国際大会、それから国際セミナーへの参加人数、各流派が行っております大きな大会等から数値をとりまして、さらに沖縄空手会館の専用利用者を足し込んだ数字がこれになってまいります。沖縄空手会館に来ない、もしくは来ても個人利用をしている方々であるとか、各道場で稽古をしてそのまま帰国していくような人たちはここには入っていませんので、さらに統計の精度を高めていく手法を今後考えていく必要があると考えております。

ちなみに、今から4年前、それと今年も各道場へのアンケート調査は実施いたしました。ただし、ここから1つ課題ですが、一番大事なところは経済効果が出てくると思います。空手の経済効果はどのぐらいなのか。具体的に言いますと、来沖した空手家に「あなた幾ら使いましたか」と聞く必要がありますが、なにせ空手というものは、手(てい)で銭も受けたらならんどーというぐらい、お金とは少し切り離れた精神性というものを尊重する部分がありますので、その辺の聞き方は今模索しているところになります。

では、次の9ページをお願いします。

課題及び対策ですが、一番の課題は指導者・後継者育成になってまいります。つまり、空手一筋で生きてきて、人生設計豊かにできる環境にないというのが沖縄の現状です。そこをどうしていくのか。本当に空手に集中して大会等でいい成績をおさめた人たち、もしくは大会とは関係なく、伝統空手を守りながら空手で飯を食べていきたいという人たち、そういった人たちの生活をいかにして豊かにしていくか。その仕組みというものが必要が

ございます。当然そことリンクしてくるんですが、道場の運営基盤の強化というものも必要になってまいります。

それから、先ほど説明しました、沖縄空手案内センターの多言語による受け入れ体制とありますけれども、やはりまだまだ不足しております。例えば宿泊施設の案内というものが受け入れ先の道場主の一番の課題として、4年前の実態調査で出ておりました。

資料14は以上でございます。

次に、検証シートに移ってまいります。A4横の資料12の6ページ、7ページをお開きください。

まず6ページです。平成30年度の実績値といたしまして7,169人。令和3年度の目標値を9,400人と置いておまして、これは達成できるであろうと考えております。

次に、7ページです。その背景・要因の分析といたしまして、右側にまとめてあります。

沖縄空手を振興するため、2年前にビジョンをつくりました。20年後の沖縄空手のあるべき姿を描こうということで、空手関係者のみならず経済界、学識経験者等一堂に会して目指すべき将来像をつくりました。昨年度は、そのビジョンを達成するための具体的な行程等となりますロードマップをつくり、それらに基づいて国際大会の開催、それから沖縄空手会館を拠点とした各種の事業を展開しているところでございます。

以上で、空手の説明を終わらせていただきます。

【下地部会長】 ありがとうございます。

説明はMICEまでいってから、委員の皆様の御意見を伺いたいと思います。引き続き事務局お願いいたします。

(2) 戦略的なMICE振興

【事務局 加賀谷MICE推進課長】

皆さん、こんにちは。MICE推進課の加賀谷でございます。よろしくお願いたします。

まずは、お手元の資料14、沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)等総点検報告書(素案)をご覧ください。

本日は、第3章の3項中、(2)世界水準の観光リゾート地の形成におけますMICE振興の取り組みについて主な該当箇所を説明させていただきます。なお、大型MICE施設の整備に関する取り組み等については、MICE誘致や受け入れ体制整備等について説明した後、説明をさせていただきます。あらかじめ御承知ください。

ページにつきましては、山川課長とは違いまして、資料中央にあります素案本体のページを読み上げさせていただきます。

それでは、資料14の450ページをお開きください。右側は10ページになります。

ウ 大型MICE施設を核とした戦略的なMICEの振興の取り組みと成果等について御説明いたします。4行目をご覧ください。

沖縄県では、MICEを戦略的に振興すべくビジネス目的の来訪を促すとともに、ビジネスイベントを通じてアジアの活力を取り込む施策を展開し、国際的なMICE開催地としてのブランド確立に向け取り組んでまいりました。

具体国には、国内外の新たなMICE需要を取り込み、本県のMICE関連産業の発展につなげることを目的とし、効果的かつ質の高いプロモーションなどの誘致広報活動、コンベンション等の開催経費の支援や芸能団派遣等を行う開催支援、MICEプレーヤーを育成する研修の実施などの受け入れ体制整備の一連の取り組みを推進しております。

9行目をご覧ください。

マーケティングに基づくプロモーション展開を強化するため、M (Meeting) / I (Incentive) / C (Convention) / E (Exhibition/Event)、MICEのそれぞれの各カテゴリー別に重点誘致分野や取り組み事項等を定めた沖縄MICE振興戦略を平成29年1月に策定しております。また、沖縄県の特性を踏まえた「ひらめきや創造性と出会える場所 沖縄」というMICEの開催地としてのブランドを確立すべく、その形成に取り組んでいるところでございます。

またMICE主催者の満足度向上等を目的に、会議開催時のシャトルバス運行や開催経緯の支援を行うとともに、芸能団派遣や空港での歓迎式などを行っております。

このほか、歴史的建造物を活用したレセプションなど特別感や沖縄らしさを演出できるユニークメニューの開発、自然・文化・芸能など沖縄の魅力を生かした体験プログラムの開発なども推進をしております。

本文中に記載はありませんが、取り組みの成果として県内のMICE開催件数は全県的な統計を取り始めた平成26年の1,023件から、平成30年は1,238件と着実に増加しており、特に学会等のコンベンションは86件から241件と大幅に増加をしております。

26行目をご覧ください。

成果指標の1つであります、1,000名以上のMICEの開催件数は、県内最大施設の沖縄コンベンションセンターが高稼働率で推移しており、新たな大規模案件を取り込めない状

況が続いていることも相まって、総点検の評価年である平成29年は81件、直近の平成30年は85件にとどまっております。

300名以上のインセンティブ旅行件数は、平成29年は25件、平成30年は46件となっており、現時点で目標値は達成しているところでございます。

また、MICE開催による直接経済効果については、平成29年は226億円、平成30年は243億円となっており、目標の達成に向けて徐々に増加をしております。

42行目をご覧ください。

着実に増加するMICEを持続的に進行するためには、受け入れ体制の強化が重要と認識しております。このため、平成29年7月に産学官で構成する沖縄MICEネットワークを設立し、MICEの誘致・受け入れに関する総合支援機能などの基礎となる体制を整備したほか、MICE振興の意義等について県民理解を深める取り組みを実施しております。

続きまして、451ページ(右下11ページ)の7行目をご覧ください。

MICEにかかわる人材の育成・確保については、基礎から応用まで事業者の段階に応じたセミナーを開催しております。

続いて、課題等にご説明いたします。24行目をご覧ください。

主な課題としまして、MICEの誘致競争が年々拡大する中、競合地と差別化を図り、国際的なMICE開催地としてのブランドを確立すること。

40行目をご覧ください。

県内には、MICE専門の事業者が少なく、多様なニーズに対応できる人材の育成・確保などがあげられます。県としましては、沖縄MICE振興戦略に基づき、これら課題の解決を図りつつ、MICE振興に努めていくこととしております。

続いて、大型MICE関連施設について、まずは課題等について説明いたします。同じく451ページの32行目をご覧ください。

アジアを中心にMICE開催需要が増加する一方、沖縄県においては既存施設の機能や規模不足で対応できず、機会損失が発生していることから、大規模展示場等を備えた大型MICE施設を着実に整備していく必要があると考えております。また、施設の安定的な運営に向け、交通利便性の確保や周辺エリアへの宿泊施設、商業施設等の誘致に取り組むとともに、当該施設を核として創出された賑わいを東海岸サンライズベルト一体に連鎖させることも重要と考えております。

450ページ(右下10ページ)の35行目をご覧ください。

沖縄県では、大型MICE施設の整備に向け、沖縄振興特別推進交付金(一括交付金)を活用すべく、需要・収支見込みの精度向上に取り組んだほか、大型MICEエリア振興に関する協議会等を開催し、大型MICEの受け入れ環境整備に向け、関係部局や地元自体等と連携し取り組むとともに、主催者や利用者の満足度向上において重要となる交通アクセスの拡充に向け、道路整備事業の進捗状況の確認や利便性の高い公共交通ネットワークの構築に向けた課題整理等を行ってまいりました。

これらの取り組みを進めながら、同交付金の活用に向けて国と協議を重ねましたが、協議が整わない中、2021年度に期限を迎える同交付金制度の終期までに施設整備を完了できないことが確定しております。そのため、今年度事業のあり方について整備財源の確保策を含めた再検討を行い、今後の進め方を整理することを目的とした調査を実施しております。

県としては、地域ブランドを高め、高い経済効果とビジネスの創造が期待される大型MICEの建設を推進するため、引き続き取り組んでまいります。

続きまして、検証シートについて御説明いたします。右肩に資料12と打ってございます沖縄21世紀ビジョン基本計画等検証シートの右下8ページをご覧ください。

成果目標は5項目ございます。そのうち3.参加者が300名以上のインセンティブ旅行件数のみが「達成」、それ以外は「進展遅れ」となっております。

まずは、1. MICE開催による直接経済効果につきましては、MICE開催件数や参加者数の増加に比例し、直接経済効果も年々増加しているものの、目標設定の前提であります大型MICE施設の整備が遅れていることから、令和3年度の計画値達成に向けては厳し状況にあります。

このような中ではありますが、MICEによる経済効果を最大化するため、沖縄MICEネットワークを活用し、県内MICE関連産業の創出等を推進するなど、目標達成に向けしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

続いて、2. 1,000名以上のMICE開催件数につきましても、同様の状況にあるものの、会場分散化による対応を推進するなど、引き続き大型MICEの開催に向け取り組んでいきたいと考えております。

続いて、4. 国際会議と5. 国内会議の開催件数につきましては、学会や各種団体等の会議の開催地は開催の1年以上前に決定することも多いことから、開催件数には過去の誘致活動の結果が反映されており、基準値に対して国際会議については横ばい、国内会議につ

いては7件減となり、計画値を下回っているものの、学会については地方での開催意欲が年々高まりつつあることから、このような需要にも着もくしながら、引き続き目標の達成に向け取り組んでまいります。

総点検報告書、検証シートについて、MICE関連の説明は以上となります。

【下地部会長】

ありがとうございます。

事務局から補足がありますか。

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

ただいま説明がありました本日の審議テーマであります空手振興、MICE振興について御意見をいただきたいと考えております。

また、本日4回目ということで、残すところあと1回という形になっておりますので、本日の審議テーマ以外の部分に関しても、例えば沖縄県の観光の質の向上、そういったものに向けた観光インフラの整備であったり、2次交通、ITの活用、デジタルマーケティング等、人材の育成、DMO、それから目標の設定とかさまざまな御議論、これまでもいただいておりますけれども、残すところ本日含めて2回ということですので、ぜひ幅広い観点から御意見をいただければと考えておりますので、御審議をよろしく願いいたします。

事務局からの補足は以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。その意味では、空手とMICEがテーマですけれども、これに直接関係なくとも、委員として少し気になる点があれば、本日も御発言をいただければと思っております。

これから先は、まず空手からスタートしていきたいと思いますが、今、事務局から説明のあった記載内容等について御意見をいただければと思っております。記載内容に修正等が必要ではないかという部分等もあれば、あわせて御意見をいただければありがたいです。よろしく願いいたします。

特に順番等は決めておりませんが、流れて的にいうと空手の部分からですので、佐久本委員、もしくはミゲール(・ダルーズ専門)委員からお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

【佐久本専門委員】

あまり考えがまとまった形で話はできないですが、県の文化観光スポーツ部に空手振興

課ができて、沖縄空手振興ビジョンの策定についてはでき上がって、ロードマップが既に山川課長のほうで整理して、スタートラインにはついたのでかなと思います。

ただ、これをどのようにして機能させていくのかという部分が少し見えにくい。もちろん当然、空手関係者も含めて3つのキーワードがあって、伝統空手の「保存・継承」、「普及・啓発」「振興・発展」と、沖縄のいろいろな産業とも抱き合わせしながら、県民が一体となって空手を盛り上げていこうではないかという話は、お互いの中ではある程度理解はしていると思います。ただ、形としてお互いがどう動いていくのかという部分が少し見えてこない。

それで、私が今やっていることを、前回も少しお話をしましたけれども、県でロードマップができて、そのマニュアルに沿って組織、私のところは小さい流派ですが、そこで実際に動いていこうということで、去った4月に社団法人を立ち上げました。

私は2つ持っています。1つは一般社団法人劉衛流鳳凰会、もう1つは一般社団法人佐久本空手アカデミーというものを立ち上げました。これは安里に本拠を置いて、70坪ぐらいの道場施設、稽古場所、研究場所を立ち上げて、そこも機能させながら劉衛流と小さな流派であります。そこも動いていくという形をとっています。

多岐にわたっていろいろをことをやって、ただ空手ばかりやってもどうしようもないので、去った8月19日から24日まで恩納村恩納の海浜公園で国際平和祈念奉納演武を、恩納村役場と提携して向こうの協力をいただいてやりました。

10月24日は、県立武道館で「国際交流と芸術（アート）へのIZANAI2019」というタイトルで趣向を少し変えてやってみました。海外から320名ぐらい集まりました。当然このメンバーが10日間近く宿泊するわけですので、それなりの経済効果もあったのかなと。

私としては、空手一つでくるのではなくて、これを機会にいろいろな人たちとふれあいをさせたい。要するに文化、「国際交流と芸術（アート）へのIZANAI2019」というのは、県立南風原高等学校の郷土芸能部が全国大会でも優秀な成績をおさめておりますので、そことタイアップしました。沖縄の踊りとかいろいろなものが出て、空手を海外の人も一緒にやろうではないかと、踊りも一緒にやりました、カチャーシーもみんなでやりました。そういう巻き込んだ形でのものができるかということで考えてやったのですが、非常に成果があって、今、3カ月に1回程度の割合でインターバルで国際セミナーを開催しています。

また、去った8月は320名のメンバーでやりましたが、今度は規模は小さいんですが、3

カ月に1回ですが、もう既に30名以上のオファーがあります。3カ月ごとですので、2月にまたもう1つセミナーをするということで、これにも既に申し込みが入ってきていますので、着実にそれをやっていきたい。

やはり海外の皆さんは、空手に対しては目が肥えてきているというか、だから指導者の質の向上も求められるだろうなと思います。喜友名選手に憧れて来るのがたくさんいます。読めないぐらい喜友名選手に憧れて来る。彼と一緒に稽古したいという人がどんどんいます。

今、インターネットを有効活用したやり方で、どこでもすぐ簡単に連絡が取り合えるわけです。私のところにもこの間ネットで流したら、6,000名ぐらいの皆さんがそれをキャッチしたものがあって、こういう時代にきているんだなと。もう守りの時代ではないなと、どんどん自分たちから攻めていく。

やはりマーケティング市場では、商品になるようなもの、指導者でもしっかりしたものをつくっておかないと、肝心要の「発祥の地・沖縄」とは言ったものの、指導者のクオリティーも上げておかないと、外国の人も今は非常に目が高い。

それで、私たちのほうも僭越でありますけれども、稽古は毎日やっています。指導者は毎日。きょうも先ほど10時半から2時までやって、こっちに駆け足でカバン持ってきたんですけれども、そういう形で外国の人もとても空手は上手になっています。そういう意味では、そこもしっかり上げていかないといけない。

それから、イベントの持ち方についてもひと工夫が必要になってくるという感じがします。例えば空手オンリーでやるのか。せっかく来た人も全員が全員空手のプロではないわけですので、健康のためにやっぴらっしゃる方もおれば、沖縄の文化、その他の文化も含めて魅力を感じて沖縄にいらっしゃる方も空手界の中にはおります。だから、みんなで楽しめるというか、参加型のイベント、今までも県立武道館で演武会をしても、自分たちの子どもが終わったらどんどん親は帰っていく。大体そんな感じのイベントで、あまり魅力的ではない。

そういう意味では、イベントの持ち方などいろいろなものとかみ合わせながら、本当に楽しい参加型のイベントができないかなと思います。

それから、来年ですか、第2滑走路もできるようでありますので、いよいよ来たなという感じがします。多分ハブ空港になるであろうと。そうしたときに、前もお話ありましたが、けれども、フランクフルトあたりとヨーロッパの、私はドイツに1年おりましたが、あの

あたりだったオーストリア、スイス、オランダ、フランスまで1時間で飛びますので、ここを拠点にして、ここからダイレクトでこちらに来れば、27時間もかからなくてもこちらに飛んで来れるわけです。そういう交通機関をうまく有効活用しながら、もっともっと世界にアピールできるようなもの。

その空手を愛好している人たちの中には、いろいろなジャンルの方々がおられます。空手だけではありませんので、そういう方とのつながりも沖縄県の、例えば植物に興味を持っている人もおれば、あるいは食文化に興味を持っている人もいます。こういうつながりを持ちながらうまく空手もベースにしてやっていると、おもしろいことが起こるのかなと思います。

とりとめもない話になりましたけれども、やはり見る空手もあるかもしれないけれども、やはりリピーターを増やすというのは、魅力のある空手でなければまた来たいというのは考えにくいと思います。一過性のものでなく取り組みをさせるような空手、伝統空手、そういうものでないものがこれから求められると思います。

同じことを何度も言いましたけれども、イベントの持ち方、それから今言っているハブ空港を有効活用した多岐にわたるいろいろなジャンル、空手を媒体にしていろいろな方たちとのつながり、そういうものができるといいだろうなと思います。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

もう1人、関係者としてミゲール(・ダルーズ専門)委員のほうからお話を聞いた上で、また事務局からも少しコメントをいただければと思います。

いかがでしょうか。

【ダルーズ専門委員】

佐久本先生が全部話したので、私は意見がないというわけではないですが、私もまとめのないものですけど、何点か。

資料14の9ページに、「沖縄空手の次世代を担う指導者・後継者の育成を図り」とありますが、それももちろん重要だと思いますが、それよりもっと重要なのは一般空手家の人口増加です。弟子がいないと指導者はいません。

なので、もっと工夫して、何で空手は人気ないのか、何で道場には人は少ないのか。そういうこともリサーチして、それでどう対処するか必要ではないかという気がします。

沖縄に道場は400ぐらいあるとはいえ、人口は少ないけど、オーストラリアの田舎、小さ

な町に道場が3つ、4つあってもみんなうまくいっています。何が問題なのか、それを検証すべきではないかなという気がします。

さっき案内センターの話も出たのですが、私はそこにいるので話づらんですけど、まだ案内センターは海外向けの皆さんのために設置された組織と思われて、県民の理解度・認知度が少ないのか。空手家も案内センターにほとんど来ないです。日曜日は出勤だったので、たまたま北部の先生が来て、うちの弟子がビザに必要な書類を送られたんだけど、どうすればいいのかと。これ初めての相談です。だから、もっと空手界との連携、ネットワークをどうつくっていくか。やはり町道場が空手の宝なので、その町道場主の集まり、振興会はもちろんありますが、振興会に情報はいつでも町道場にいかないの、空手界のネットワークをもっと増加すべきではないかなという気がします。

さっき佐久本先生も話ありました空手のニーズ、いろいろなニーズがあると思うんですけど、セミナーやイベントの持ち方もあるし、誰のために、その人たちは何を求めているかということをもっとリサーチすべきではないかと。ただ、イベントをやるのではなくて、今年の空手の日(10月25日)、一昨日ですが、これまでむつみ橋の演武会場で人が多すぎて通れなかったんですよ。今年はすっとは入れたんですよ。ということは、県民は本当に来たのか。大綱挽きと一緒に。人が多すぎて行きたくないのか、もう1回見たからいいかと。

奉納演武は25日にやって、これは空手家しか来ないんですけども、本当は一般県民にも見てほしい。演武の持ち方、何を見せるかということも、沖縄伝統空手振興会や受託企業に任せるのではなくて、もっと検討すべきではないかという気がします。

これと関係していくと思いますが、ここにあまり空手ツーリズムはまだ出てきてないのですが、空手ツーリズムも最近は大流行で、いろいろな企業がいろいろな商品を考えているけど、今現状は全くうまくいきません。今年の春まである企業と毎週セミナーをヨーロッパでうっていこうと、結局、広告にかけられる予算が取れない、1回も開催しないで終わったんですよ。

だから、もっと企業が商品をつくるためには、どこで告知に使える予算があるのか。それをもっとサポートしてもいいのかなと。そこでこの空手のネットワークをもっと構築していくべきかなという気がします。ばらばらな話ですみません。

あと少し。最後に、前回も言ったと思いますが、空手の愛好者、愛好者は一般県民みんな愛好者だと思うので、その一般県民の興味をもっと引くような方策、方法を考えていく

べきではないかなと。空手のイベントに自分の親戚が出ない限りは行かない。もったいない。観光客も来ない。これももったいないので、もっとイベントの持ち方をいろいろな提案をしてもいいのではないかなと思います。

極真系の大会は毎年行われてテレビ放送もある。武道館、那覇市民体育館も人はいっぱいです。沖縄空手の大会テレビ放送は聞いたことない、見たこともないです。そのアイデアがないのか、恥ずかしいからやらないのか。それをもっとサポートしてもいいのではないかなという気がします。

【佐久本専門委員】

今ちょうど平田さんがこちらにいらっしゃるので、いい機会なと思っていますけれども、私が県立芸大にいるときに平田さんは文化観光スポーツ部の部長をなさっていて、そのころ沖縄のエイサーを見たときに盛り上がりがあるなど。そのエイサーも見たら、平敷屋の素朴な、ばちも小さく派手さは何もない。伝統的なのというか、やはり古典的で深みのある、なかなかいいものだなと思いました。

それからもう1つ。ど派手にいろいろな服装して格好よくやっている、若い人に人気のあるエイサー。これはもうどんどんチームを組んで、今やっている。近代エイサーと言うんですか、私は言い方はわかりませんが、会場は割れんばかりの人が集まって、この間の沖縄市でもそうでした。あれを見ると、伝統的なものもある、近代的なものもある。

今の空手界のニーズに応えるための空手は何だろう、伝統空手は誰が守るのかと。恐らく流派でしょうね。各流派が守らないといけない。

だけど、私は守ろうとは思っていません。温故知新と前も言いましたけれども、基本となる原点は大事にする。空手の基本は決まっていますので、無駄なことはしない。空手は武道性の高いスポーツの科学であると思っています。

だから、練習法も今は、私が世界選手権に出ているころは栄養面なんて考えたこともなかった。今は栄養士もついている、オリンピック委員会からトレーナーもついている。喜友名君たちとても幸せです。金もいただける。それから、製薬会社からいろいろなプロテインとか栄養、あの体は見てのとおりですよ。もう今は外国の人に負けない。腕力でも負けないと思います。

この表にも出ている。空手はこちらに1億3,000万人と書いてあるわけです。194の国と地域に1億3,000万人いるんです。沖縄にお見えになる空手家は大体8,000人から約1万人以内だと思いますが、1億3,000万人分の1万です。

今のエイサーの話に戻るけれども、私は伝統空手は進化・発展させていくものだと思いますので、例えば昔はゴム草履をはいていたから、いつまでたってもゴム草履をはくのではなくて、その種目のニーズに合った履物。陸上競技のスパイクでもそうですよ。どんどん進化・発展させているわけです。でも原点は、根になるところは変えていない。恐らくこのエイサーのばちさばきよりも、今の若い世代の子どもたちに合っているかもしれないけど、やはり元を戻していったら、エイサーという1つの枠の中では伝統的なところに行きついていくだろうなと思っています。

私たちの喜友名がやっている空手も、きのう7時ごろからのラジオ番組でたまたま聞く機会があって、競技空手と伝統空手の話をしていました。我々のことを言っているのかなと思いましたが、喜友名たちがやっている空手は紛れもなく1819年、仲井間憲里が中国に渡って道光年間に師事し、持ち帰ってきた空手。彼は一手も変えてません。そのまま原形のままやらせている。それで勝っている。だから、いいものはいいで人は評価する。それをさらに喜友名の時代が来たときに喜友名のよさを出しながら、ルーツは1つで、元に戻るのには1つかもしれないけれども、どんどんどんどん今のものになじむような、やはり大人が空手を守るだけに考えないで、原点を大事にしつつやるべき。

1億3,000万人の空手の市場があるのに、沖縄に来るのはたった1万人か。何かあたかも敵対視しているように、スポーツ空手はだめなんだという捉え方をしているようなことでは、いつまでたっても1万人を超えないだろうな。

私たちのところには既にいろいろなところから喜友名と一緒にやりたいという人たちが、ほとんどフェイスブックで入ってきたりやっているわけですね。だから、いいのはいい。全てが近代的なエイサーがいい、近代的な空手がいいということではないけれども、いいのは誰が見てもいいわけですから、ニーズに応えられるようなもの。

いろいろな人とかわりを持ちながら、まさに今の空手振興ビジョンの原点に立って、私は空手はできないけれども見ることは可能である、私は空手できないけれどもいろいろなシャツをつくって販売できる。販売市場、マーケティング市場広くなればなるほど、多くなればなるほど回転も速くなる。1億3,000万人もいるのに、守るんだということだけをしてやっていること自体が70年前の空手と、35年前の国体があって、やっている今の空手と、組織的な動き方について何ら変わらない。私含めて情けないなと思います。

子どもたちは大きな目標、夢を持ってどんどん前に出ていこうとしている。しかし、大人は、拳句の果ては伝統空手をなさっている方に、会議の中で伝統空手は絶滅危惧種だと

いう話もしておられました。振り向いたら、もう後ろには子どもたちはいない。子どもたちは小学校、中学校、高校、大学、実業団と組織化されて、しっかりしたところでオリンピックまでいけるようなレールが敷かれているわけです。

ところが、伝統的なものの空手は組織に入っていない。皆さんについては守るだけやっているかもしれないけど、振り向いたら子どもたちはもういないわけです。要するに、興味がないわけです。6歳、7歳。その子どもたちというのは、中学校行って、私も石川でも子どもたちとスポーツ教室をやっていますけれども、伝統空手はそういう組織に入っていない別の道場が恩納村にもあります。そこの先生の子どもが中学校でどうしても頑張らせたいということで、石川の道場に来てやりなさいと言っているところもあるわけです。

だから、子どもたちは組織の中身もよくわからないから、一生懸命純粋にやっていて、中学校、高校に入ったら、試合に出たくてもその形がわからなければ、出れないわけです。そういう非常に不合理さもあって、全部が全部、競技空手がいいということではないけれども、伝統をしっかりと守りつつ競技空手のニーズにも応えていける。そういうふうにして子どもたちがいろいろな多岐にわたって活躍する。

空手に何を求めるかといったときに、伝統空手を守って何をするんだと、伝統空手で何をするのと。極端で言葉は上等ではないですよ。だけれども、オリンピックだってそうですよね。空手を通していろいろな国の人と交流をする。伝統空手も継承する。空手を勉強する中から国際交流も図る。異文化のお互いの相互理解も図っていく。イスラム教徒であろうが、キリスト教、神教であろうが、みんなイデオロギーが違っていても空手という一つのものでくくられているわけですよ。それで仲よくしようと。そこから見えてくるのが、沖縄が求めている世界の恒久平和、経済効果。

空手の皆さんで一生懸命やっていて、今、伝統空手も含めて一生懸命やっていて、空手を通じた国際貢献、社会貢献、今アジア等で学校も行けない子どもたちだっているわけです。アフリカあたりもそうですよね。マンホールチルドレンといいますか、学校に行きたくも行けない子どもたちがいっぱいいて、こういう人たちに貢献していく。本当に空手のよさをお互いが共有しながら経済的な効果も、沖縄のほかの文化もたくさんアピールしていくという根になるものが空手なのかなと。空手に限らず舞踊もそうだと思います。食文化も。こういうのもにつないでいかないと、ただここで牛耳って守る、守るんだと、守って何をするのと、なぜ少ないのと、なぜ1億3,000万人もいるのに沖縄にたった8,000人しか来ない。満足している話でもないわけですよ。この辺が非常に寂しいなと思いますね。

少し言いすぎました。すみません。そういうことです。

【下地部会長】

ありがとうございました。だんだん体があつたまってきて、調子が上がってきましたね。

【佐久本専門委員】

すみません。すぐ燃えるタイプなので申しわけないです。

【下地部会長】

今度は原田委員から。

先ほど佐久本委員からもスポーツの科学的な視点というものもありましたけれども、少し視点を変えて原田委員のほうが今の沖縄の空手の振興、この計画の中でいろいろな取り組みをしてきてますけれども、きょうの事務局からの説明内容も含めて、少し御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【原田専門委員】

以前、県で空手のブランディング委員会の委員もやっていましたので、今の佐久本委員のお話はかなり心に染みるものがありました。そのときも似た議論をやってまして、やはり空手全体でいかないといけないけど、どこかで議論が流派のほうにひゅーっと流れて行って、もっと上のほうでやろうと。

その後、オリンピックの種目にもなって、沖縄空手あるいはスポーツとしての空手はかなり明確になってきたと思うんですが、今スポーツ庁でも武道ツーリズムの振興というものを一押しでやっております。既に第1回武道ツーリズム研究会も終わり、いよいよ次年度に向けて武道ツーリズムを推進する機構をつくらうと。オールジャパンで武道ツーリズムを盛んにしようということで、多分事務局は今私が代表理事でやっている日本スポーツツーリズム推進機構の中に置くことになる可能性があります。

ただ、武道ツーリズムといいましても非常に幅が広くて、我々、漢字の「武道」とアルファベットの「BUDO」ということで、漢字の武道はもちろんこういう精神世界の卓越した技術を見せる本物の武道ですが、アルファベットのほうは流鏑馬(やぶさめ)から日本泳法から、極端な話、忍者まで入れてしまい、結構広い入れ物をつくっています。

今、各地でやっている武道ツーリズムの成功事例を集めているのですが、例えば村山市がやっている剣道のツーリズムは、完全に半日・1日コースで1万2,000円から4万円と商品化しています。最終的に真剣でぶった切るところまで作法を全部教えて、武道着も着せてということで安全に留意しながら商品にして、そこに刀の文化や地元の食べ物、まさに

文化と剣道、そして真剣で切るような体験をつくって商品化しているということになります。

そういう事例を集めている中で、例えば先ほど道場経営が大変だというお話があったのですが、我々が注目したのはタイのムエタイジムという道場がありますが、これが観光事例で非常に成功しています。今バンコクに1,500ジムがある。日本には400あると聞きましたが、1,500のジムがかなりそういうインバウンドの観光客で盛り上がっている。その中にはエクササイズとしてのムエタイもあるということなので、結構うまく汎用的に商品化しているなというイメージも持っているし、実際に日本人でもバンコクに行ったときに「ムエタイ道場行ったぜ」みたいな、若い人がムエタイ体験をやっているの、空手にもそういうことが十分可能なのではないのかなと思います。

武道ツーリズムの研究会では、日本武道館も中に入っていてオールジャパンで武道全体をやっていると。

あと、先ほどの剣道に話を戻しますが、剣道の場合は武具が非常に日本文化の結晶したような美しいものを織り込んだ模様とか、武具の見学も入っている。刀の歴史も学ぶというように、剣道を取り巻く全ての文化を1つの商品パッケージにされていて、可能性はあるかと。

では、空手はどうだということ、いろいろお考えいただく必要もあるのかなと思いますので、可能性があるだけに動きが少し見えてこないのが今後の課題なのかなという感じはします。

あとは、こういうことを言うと怒られるかもしれませんが、空手をベースにいろいろな武術に日本人が羽ばたいて行って、1億円稼いだとか、2億円の賞金取ったとか、でもベースは空手でまた戻ってくると。それを見た子どもたちがそういう世界に憧れて、空手から入っていくというそういった社会過程が目に見えてくれば、裾野もぐっと広がるような。

例えば今シンガポールをベースにしているONEチャンピオンシップは大成功してますよね。あそこの基本的なフィロソフィーは単なる殴り合いではなく、武道ですね。「礼に始まって礼に終わる」と。でも、すごい華やかな世界でやるというような、そういったおもしろいものもありますので、いろいろな視点から空手の未来を考えていけたらいいなと思いました。以上です。

【下地部会長】

どうもありがとうございました。

今、各委員のお話からすると、今回の検証の中身で書かれている部分と、今後やっていけないといけない部分のだいぶ開きがあると感じておりますけれども、今それぞれの委員から出てきた意見に対して、事務局から簡単にお答えすることができますでしょうか。

県内の空手人口を増やすための取り組みだとか、言葉は正しいかどうかあれですけども、ある種の空手の産業化という視点もあるかもしれませんけれども、そういった視点等含めて今の取り組み、この検証の中ではあまりそこまでは触れられてはいないのですけれども、いかがでしょうか。

【事務局 山川空手振興課長】

4年前に調査した際に、沖縄県空手道連盟という組織があります。いわゆる県連と呼んでいますけれども、県連は登録しないと全国大会や世界選手権に出れないという仕組みがとられていますので、人数が確実に取れるんですね。それが約2,000人という数字になります。それ以外にも3つの大きな団体がありまして、こちらの数字は推計するしかないのですが、その4年前の調査で31.5人という平均値が出ています。それに道場数を掛けると、約1万人という数字が出てまいりました。私たちとしては、県内の愛好家も含めた空手人口は1万人ぐらいいるだろうと考えております。

それから、世界に1億3,000万人の巨大な市場があるにもかかわらず、県の統計では6,000人ちょっと、平成30年度の統計では7,000人を超えてきたのですけれども、わずかな数パーセント以下の人数しかないよねと。

それにもまた理由がありまして、県内の道場のうち外国の空手家を受け入れている割合は37%という結果が出ております。それはなぜですかという問いに対しては、まず言語が難しいと。いわゆる外国語で話しかけられてくると、少し沖縄の言葉かもしれませんが、うじてしまうといいますか、怖気づいてしまうというところがあります。

それから、例えば37%の道場がフル稼働したとしても、宿泊先の手配や食事会場の世話、もしくは道場で稽古をしていない間どういうふうにして彼らの時間を過ごさせるかというアフターフォローの部分があります。そういった負荷があつてなかなか伸びていかないところはあると思います。

ただし、今回空手会館ができたということもありまして、6,000人だった人数が7,000人になります。令和3年度の9,400人は達成できるだろうというところは、受け入れ体制としての施設が整っているというところですよ。

もしかしたら、皆さん町道場をご存じないかもしれませんが、結構こじんまりとしてやっているところが多いです。そこに子どもたちであるとか、地域の大人の方々、それに外国の人が混ざるとなると20人ぐらいでもういっぱいになってしまうんですね。では、どうやって運営しているかという、近くの小中学校の体育館を借りて稽古していたりします。そこに外国の人たちの夏休みの期間はかぶってきますから、別の外国の支部の人から、先生行きたいんだけどという連絡があったとしても、既にほかの国の人たちが来ていたらもうブッキングしているので、ごめんねという話で受け入れられないというところがありますので、そこらへんも含めた受け入れ体制の強化を図るために、我々は案内センターを設置して、案内センターには基本的に県内空手道場の情報は入ってきているはずですから、どこの道場が既に受け入れているかというのは知っているはずですが、受け入れていない道場のほうにどんどん案内して回して行ってという仕組みを、今、残念ながらスタッフが3人しかいないんですよ。この数を増やしていけば、もっともっと案内できる件数は増えていけるかなと考えております。

あと、産業化の話ですけれども、まず考え方としては、沖縄県には約400弱の道場があります。その各道場がそれぞれアトラクション施設だと考えた場合には、沖縄県全体が空手のテーマパークになってくるわけです。こういう言葉を使うとまた叱られたりするのですが、沖縄に行けば何かしら空手に関しての楽しい、夢を見られるものがあるのではないかと。

僕らが描いているのは、空手の懸賞費もそこに加えながら県内をくまなく動かしていくような、きょうはA道場で学んだ。これはビギナーの人ですけれども、自分に合う沖縄空手の流派、道場はどこにあるのだろうかという探す旅をさせてもおもしろいかなと思うんですね。きょうはA道場に行きました。次の日はB道場に行きましたと、そういう案内をしていくことも1つかなと思っています。

それで、御紹介をさせていただきたく、きょう資料をお配りしておりますパンフになるのですが、「空手を伝え、広める！」ということで2つお配りしております。

まず、厚手のほうをご覧になっていただきたいのですが、現在、沖縄空手会館で企画展をやっております。中身は後ほど時間を取って読んでいただきたいのですが、見ていただきたいのは一番後ろになります。空手と学校ゆかりの地めぐりツアー、これは首里編ですけれども、首里はいわゆる首里手(すいでい)という空手の流派が普及拡大した土地になりますので、さまざまな史跡があります。こういったところを空手振興課では掘り起こし

をして、そこに意味づけというのを行っているところであります。

では、これらをどう活用していくのかということで、もう1枚の両面刷りですが、裏面の「空手と学校ゆかりの地めぐりツアー」ということで、12月22日にモニタリングのツアーを実施いたします。これは委託事業ではなくて、空手振興課職員の手づくりでやっている部分になります。そこには大手の旅行会社の人たちも興味を示しておりまして、どことは言わないですけども、そういった方々も含めながら、このめぐりツアーをして商品化につなげていきたいという取り組みをしております。

あと、たくさんありましたよね。

これぐらいでいいですか。

【下地部会長】

そうですね。きょうはMICEもやらないといけませんので。

今の説明はそのとおりだと思いますけれども、各委員の皆さんから出てきた言葉からすると、指標も現在空手関係者の来訪数のみになっていて、これで空手振興をしっかり説明できるかというところと少し違うだろうなというところもありますので、今後という意味では、指標の精査というものと空手家と空手家以外の人たち、あと武道ツーリズムというのは最近本当に注目されていて全国で取り組んでいるところですので、沖縄で言う空手ツーリズムの振興というものを、空手振興課と観光振興課の連携も必要ではないかと思っておりますけれども、そういった空手ツーリズム的な指標も少し加えていくといいのかなと思って、聞いておりました。

1点、東委員に意見を手短にお聞きしたいのですが、情報発信という意味においては今のリゾテックの中でも、その空手のIT等の相性というものも多分強いと思うんですよね。動画を使いながら発信をする。ITで空手の産業化をどう支援するかというところもあると思っておりますけれども、もし何かコメントがあれば。

【東専門委員】

コンテンツの問題。

ですから、昔、最初のころ、15年ぐらい前にやりましたよね。沖縄映像センターがやっていたね。そういう形で何とかTVでしたっけ、動画がまだユーチューブなどもあまり普及していないころということで、そういうコンテンツというのは結構できていると思うんですけど、今はコンテンツをどう発信するかということでしょうから、やはりユーチューバーやインフルエンサーみたいなものをどうやってつかまえるかということではない

かと思えます。

ただ、これはビューローさんでもやっていると思うんですけど、逆に今データをどの国で、いつごろ「空手」と入力されているのかはデータを取ることができますよね。そうすると、1年の中でいつごろスペインで空手と検索されているぞとか、またはどうだぞというのをデータを取ることによって、タイムリーに発信するということは重要ではないかなと思えます。

空手に限らず、我々も今、会社でも少しやろうとしているのですが、沖縄レンタカーというのをどの国でいつごろ検索キーワードが大きくなるのかを、年間でデータを取っておけば、いつごろそういうプロモーションをかけたらいいということがわかると思うので、ちょっとリゾテックまではいってないですけども、そういう発信先の技術的なものは専門家がいますので、それは検討に値すると思えますし、ビューローさんが導入している、言葉は忘れましたが、ありましたよね。キーワードを逆探知ではないですね。私は用語がわからないですけど、そういうふうに分る手法というものがあると思えます。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございます。

グーグルなどで検索を少し検証すると、空手というのは世界から結構多く検索をされていると。そういったところを分析をしながら、そこにどう発信をしていくのか。

例えば先ほど紹介していただいたこれ(パンフ)についても、世界に向けてどのように誰に向けてどう発信していくのかというところが、紙ベースと写真ベース、動画ベースの組み合わせというところの発信力が今非常に問われるところでもありますから、あとは解説なんだろうね。知らない人、知っている人それぞれに向けての発信というものも強化が必要かなと思いました。

では、平田委員お願いします。

【平田副部会長】

空手に限った話で、もし差し支えなければ質問を2つ先にさせていただいて、本題に入りたいと思えます。

1つは、空手振興課の全体予算が幾らぐらいあるのかをお聞きしたいことと、今、何班、何班と班があると思えますが、どういう班があるのかを後で聞かせてもらえたらと思えます。

10年前の21世紀ビジョンのたてつけと大いに変わっているのは、空手振興課という空手が、まず沖縄県庁にあるという奇跡的なことですよね。これはなぜかということをもっとしっかり考えないといけないと思いますね。

つまり、空手振興課という課が生まれたということは、行政が組織の中にそういう課を持つということは、かなり積極的にそこを県の方針として沖縄県のエンジンとして強めていくんだという思いがなければ、文化振興課や交流推進課等々と同じような形での課が存在すること自体がすごいと思いますね。ですから、沖縄の本気度合いがこれを見ても少しわかることがあります。

行政のよさというのは仕組みがつくられることなので、おもしろいことに、例えば山川課長がいなくなって次の課長が来ても、その仕組みはきちんと動いていくということが、やはり行政の仕組みづくりの強みというのはそういうことだと思うんですね。

ですから、そういう意味でいうならば、空手振興課という設置がされたメリットというのを大いに発揮できる環境に今ある中で、21世紀ビジョンの新しい次の計画の中に、恐らく10年前とは違うアクションプランがもっと入ってきてもおかしくないのではないかと思います。ですから、どれぐらいの空手専門の職員がこの間ストックされてきたのか、非常に重要なポイントだなと思って今見ているところです。

その点でいうと、やはり僕も物足りないのは空手ツーリズムというのが、空手をいかに産業化まで発展させるかということの書き込みは、この中でやったほうがいいのではないかと僕も思います。

なぜならば、今、佐久本先生の話、それからミゲールさんの話を聞いても思うわけですが、なぜ空手産業が必要かということ、空手の世界だけで自主財源をいかにつくれるかということを考えないといけないですよ。要するに、県からお金が出る限り、国からお金が出る限り守られているようなものではなくて、自分たちの持っているもので、足で立って立てるような産業までつくって、そしてそれで生まれた自主財源の予算を使って自分たちがやりたいようにどんどん空手を振興していく、あるいは普及していくということをするための関連産業だと思うわけです。

ですから、そこらへんのことを見間違えてしまう、見失ってしまうと、本当に観光客の空手ではないんだということで、また議論が蒸し返されるのではないかという気がするものですから、ぜひそういう危機感も含めて入れるべきだと思います。

その上で、実は前回9月12日の第3回会議のときに、佐久本先生、ミゲールさんがいみ

じくもお話した中で、空手産業というのは大きなハレーションというか、反発がまだまだあるということは十分わかりました。

一方で、bjリーグをはじめとするバスケットボールというのは、今はもうビジネスモデルとしてあるわけですけど、あれも「バスケットボール産業」とは言わないですね。バスケットボール関連産業というふうに関連産業なんです。つまり、バスケットボールのルールは全然変えてないと。バスケットボールそのものは変えてないけれども、周りではいかにエンターテインメントできるかということ、みんなで考えてつくることが産業なんです。

これは文化も一緒です。文化も変えてはならないものがあります。変えてならないものは、変えてはならないものとありながらも、周りではどうそれをいい意味でいえば遊んでいくかということが観光関係とのつながりになってくると思うんです。

ですから、「空手産業」と書くのがあれであれば、「空手関連産業」という表記の仕方を含めて検討されたらどうかと思います。

これちょっとした逃げですけども、空手そのものを変えるのではないということ、を言いつつ、でも、空手そのものの中にあるフィロソフィー、それこそ哲学性であったり、あるいは組踊というならば、300年前に玉城朝薫がつくったのは、組踊をつくったというよりは、新しい琉球の文化の様式をつくったということですね。だから、新しい空手の様式をつくるんだと。スタイルをつくると。200年、300年後にそれは伝統と言われているんだと、国の宝なんだ、世界の宝だと言われるような取り組みをしたいという佐久本先生の今の発言だと僕は思うわけです。

最後に思うが、それを振り返ってみますと、実は古典的なエイサーとど派手なエイサーという言い方がありましたけれども、まさに創作エイサーと古典のエイサー。

今、文化芸能指導者派遣事業ということで、交流推進課の事業で世界のウチナーンチュネットワーク関連で方々を回っていますが、すごくおもしろい現象が起こっていて、1つは、昨年行ったオハイオ州は諸見里のエイサーをやっているんですよ。もう1つは、今年ロンドンに行きましたけれども、そこは園田のエイサーをやっているんですね。

200年に園田エイサーが行ってやったときの感動をもとに、ずっとこの十何年間やっていて、園田エイサーの地方(じかた)もいるし、園田エイサーの踊り手もいるし、けれども、十何年かやっていく中でだんだん形も変わってきているのではないかと、今回県の事業を活用してエイサー指導員を派遣してほしいということで、地方、女性の手

踊り、男性の踊り、締め太鼓、踊りの3名を派遣して、みっちり1週間やったんですけれども、本当にロンドンのトラファルガー広場という大きな広場の中で約5万人の観客の前で園田エイサーが披露されたと。

これは、僕はおもしろいなと思ったのが、ハワイであるとかブラジルであるとか、もちろんそういうふうに創作エイサーも広がってはいるんですけど、一方で、伝統のエイサーも今かなりの認知度をもって広がっているのを考えると、これ県外でもありますね。例えば久保田の青年会がエイサーを、関西エリアは創作エイサーではなくて、どちらかというところだと伝統のエイサーの流れのエイサーが強いものですから、世界エイサー大会をやるに関西からはエントリーはいないわけですよ。あれっと思って見に行くと、そこは伝統のエイサーをやっているがために、自分たちは伝統エイサーなんだと。行くなら全島エイサー大会だと。そういう思いがあって、すごくおもしろいなと思いました。

だから、恐らく空手に関しても、今回の中にぜひそういう新しい空手の裾野、分野というものを構築していく何か大きなキーワードやアクションプランというか、それにつながるようなものを、ぜひこの361ページの課題及び対策の中に1行、2行でも入れていかないと、全く10年前に空手振興課がなかったときとほぼ同じようなものでは少し物足りないのではないかなというのが、僕の率直な意見ではあります。

ぜひ頑張ってもらえたらなと思います。

【下地部会長】

ありがとうございます。

佐野委員と大城委員からもお話をお願いします。

【佐野専門委員】

先ほど国際交流の話もあったので、どうしても今、空手の指導者を育てるとか、本当にコアな部分ですが、やはり空手サポーターを増やす。自分はやれないけど空手が好きという人を増やしていく。それがツーリズムにもつながっていくと思いますけれども、そういう機会が広がっていくとありがたいなと思っています。

私どもの研修員も、うちのスタッフに空手をやっている人がいるので、お昼休みにやったりしています。それだけでは、彼らが例えばアフリカに戻ったときに沖縄空手をそのまま続けることはできないのだけれども、沖縄空手の持つよさ、特に普通のスポーツでも言葉を超えてわかり合えたり、ルールを学ぶという大事さがわかるのですけれども、沖縄空手の非常にいい中身があるので、そういう沖縄の空手、あるいは沖縄のサポーターになる

というところで非常に重要な文化だと思っています。

なので、沖縄にいる間にそれを少し体験する機会が、そこそこにあるといいなと思っています。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございます。

大城委員。

【大城専門員】

素案でいきますと、361ページの3～4行の前後になりますけれども、あのあたりは文化の交流ということが出ているんですが、本県の文化は国内外へ発信し、交流する取り組みはとてもいいことだと思っています。

沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣していることは、マスコミでも取り上げられていますし、本県の伝統舞踊や三線、音楽、歌舞劇など舞台公演を実施したことで、沖縄への関心も高めることができているのだろうと思います。

素案の361ページ(3行目)に、「文化は交流により生まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため」とあります。

本県の場合、それに照らしてみますと、国内外で沖縄芸能の歌舞団が派遣される件数に比べて、国内外の芸能・文化が本県で上演される回数が少ないように思われるんですね。交流というのは、人々や文物が互いに行き来することであるとするならば、国内外の芸能・文化が本県で上演される回数が少ないということですが、今申しましたように、交流というのが人々や文物で互いに行き来することであるとするならば、素案にもありますように、文化は交流により育まれるということにもなり得ると思います。

つまり、何が言いたいかということ、例えてみるならば、肺で呼吸するように息を送り込み、送り出す働きがなければいけないと思いますね。

今、私から見ると、本県で海外で芸能する団体を派遣したりしているのは、どうも交流ではなくて、むしろ沖縄の伝統芸能を紹介するということになりはしないかと思っています。つまり、片肺呼吸であってはいけないだろうと思います。沖縄からたくさん送り出して、沖縄の文化を理解してもらう。それはそれでいいことですが、交流という場合は、やはり片肺呼吸にならないように、文化交流のあり方を検討してみる必要がありはしないかと感じています。

【下地部会長】

ありがとうございました。

時間がだいぶ押してきましたので、一度空手についてはここでとめまして、もう1つのテーマのMICE振興について、報告書の中では結構ボリュームを割いて報告をしておりますので、MICE振興について御意見をお伺いしたいと思います。

先に小島委員から、MICEについて御意見をお願いします。

【小島専門員】

時間がなくなってしまったんですけども、空手についてちょっとだけ話を。

【下地部会長】

きょうは空手の日です。

【小島専門委員】

MICEもつながるものはあるんですけども、先日ツーリズムEXPOポジャパンが、今年は大阪で行われていたので、沖縄のブース、大阪の市長から富川副知事、下地会長のほうへフラッグ譲渡式があったんですね。その中での空手の演武を見てまいりました。とてもすばらしい。やはり見るとすごいなと思うんですね。だから、見る機会をたくさんつくっていただくと広く空手を広めることにもなるので、それはMICEの会場ですとか、そういった部分での空手の披露の場としての、来年沖縄ですので、ぜひ盛り上げて空手のああいった披露の場をつくっていただけたら、すごく盛り上がると思いました。

それと、育成という意味で学校教育の中で子どもたち、せっかく沖縄はこれだけの文化があるので、学校教育の中で空手をもっと取り入れて必須科目というか、スポーツ空手なのか文化のほうかわからないのですが、もっともっとたくさん子どもたちに指導をしていただけたら裾野が広がると思うんですね。ですから、地元の方も関心を持ちますし、子どもがやっているものに関しては親も見に行きますし、またその子どもたちの中からどんどん空手を担う人材が出てくればいいのかと思うんですね。

また、海外からの学校交流が多いと、この前話をしたのですけれども、学校交流の中で空手を見る機会を増やしていけば海外にも広がっていくので、そういった交流の場にもなるかと思うので、ぜひその辺は、県の教育的な学校との相談も含めてやっていけたらよろしいのではないかと思います。

MICEについては、来年沖縄でツーリズムEXPOジャパンが開催されるということで、非常に緊張感を持って大阪も見ているんですが、なにしろ会場が小さいので、その中で沖縄でどう成功させていくか。それはやはり沖縄ならではの空手、文化ですとか、いろ

いろな沖縄ならではのものをどんどん前を出して皆さんに伝えることができれば成功させられるのではないかなとひそかに思っているので、ぜひ来年成功させるためにも空手も一緒に頑張っていたきたいと思います。

【下地部会長】

ありがとうございました。

東委員はいかがでしょうか。

【東専門委員】

この検証シートにあるように、先ほど説明もありましたが、来年新しいMICE施設ができて、そのこけら落とし的なものがツーリズムEXPOジャパンになるはずだったわけですよね。それが今見送られているという状況で、そういったハード整備の遅れみたいなものをどう書き込んでいくかということも重要ではないかなと思っています。

これは書くのが非常に難しい部分であると思いますけれども、国が国際MICEを誘致しようと言っているわけですから、それがハード整備が遅れているがために伸びていかないということですから、知恵を使ってやっていただきたいなと思いますし、何か基準みたいなものもどうやっていくのかなという感じではありますね。

それぐらいしかないですけど、頑張ってください。民間も頑張っていきたいと思いますから、そういった部分よろしくをお願いします。

【下地部会長】

ありがとうございました。

ほかMICE関連について御意見があれば、お伺いしたいです。

それでは、もう一回空手について御意見。

【東専門委員】

別のものでいいですか。

【下地部会長】

はい。ほかにもあれば。

【東専門委員】

私から別件ですが、ユニバーサルツーリズムの部分で、ユニバーサルデザイン化やバリアフリー化の部分が450ページに言葉があるんですね。もしかしてどこかほかのところでもあるのかもしれないですけども、いわゆるツーリズムとしてのユニバーサルデザイン化の部分。

バリアフリーのNPO法人バリアフリーネットワークの頑張りもあり、車椅子の貸し出しであるとか、いろいろな部分というのは数字で取れると思いますし、また、私も社団の代表理事をやっていますが、アレルギーの部分も県が非常に積極的にサポートしていただいて、冊子も第2版までできて、そして申込書も統一フォームのひな形ができていますので、着実にそういった受け入れ体制ができてきていますので、そういった部分を、せっかくなので、先進事例として書き込めていければいいのかなと思います。

それから、もう1つは自主財源。これが第5次に書かれていたかどうか分かりませんが、前回の審議会でも観光に限ったことではないですが、やはりこの自主財源をどうしていくかということが討議されていたと思うんですけども、今まさに議論されている宿泊税の部分が検討中であるとか、竹富島では入島税などを島がやっていますし、そのほかも含めて自主財源の確保についての動きみたいなことも、何かどこかで次の振興策では問われることになると思うので、何かあったらいいなと思いました。

それから、これはイベントとは少し違うんですが、お祭りのことについて文化的な、豊年祭であるとか、または奥武山でやっている産業祭りから、いろいろなお祭りがあると思うんですけど、これが地域のための祭りなのか、観光客を呼ぶための祭りなのか、完全に線は引けないと思うんですが、その辺がずっとあやふやになっている部分がありますので、これはスポーツでも似ていると思うんです。スポーツコンベンションなのか、地域の人たちを育成するためのスポーツなのかというものに似ていると思うんですけども、祭りのあり方についても少し整理してみるような必要もあるのかなという感じがします。

以上です。

【佐久本専門員】

あと1点、いいですか。

【下地部会長】

はい。どうぞ。

【佐久本専門委員】

東会長がおられるので、大きなお願いをしたいのです。

いよいよ来年8月、オリンピックが開催されます。競技空手でまことに申しわけないですが、伝統的な空手が毎年愛好者が減っていく中で、我々の組織は大体年間60名ぐらいずつ増えています。今12道場で850名います。恐らくあと2年ぐらいには、オリンピックを境に1,000名を超していきたくらいかなと思います。

そこで、私たちの組織の夢は、飛行機をチャーターしてオリンピックの応援に行きたいなど。誰の応援か、喜友名。4月6日にオリンピックの代表選手が決まります。得点トータルの高い選手、オリンピックポイントというのがあって、今、喜友名がダントツです。名前を出していますが、出なかったら困るので言いにくいのですが、1億3,000万人の中で、オリンピックポイントは世界ランキングで断トツ1番です。

それで、各国1人ずつ代表ですが、2位との差が1,000ポイント以上離れていますので、このままいけば、ほぼこの選手が決まるのかなと思っています。

応援に行きたいなど。ところが、なかなかチケットも取れない。飛行機もしかり。そこで、オリンピック委員会とかそういうところで、空手発祥の地・沖縄でもあるので、せめて1機分400名を観光客のほうでも、オリンピック委員会のほうでも調整をして、発祥の地・沖縄でもあるので全琉空手連盟、必要であればどこかそういう関係するところどこかうまくあれして、小学生、中学生の子どもたち夢のオリンピック、頑張ればこういう大きな目標を持ってやれるんだという子どもたちに夢を与える上でも、ぜひ飛行機1機分のチケットを、もちろん金を出せばいいのです。

なかなかくじ引きで取れないんですよ。そういうことで、その辺をうまく、言葉上等ではない、教育的ではないかもしれませんが、こねてでも何か取ればいいと思うので、ぜひその辺を。

県連で話し合いましたのですが、お互い話は出たものの、飛行機の件やチケットの件からするととん挫して終わりました。去年その話がありましたけど、ほぼ決定する確率が高いので、そういうのでできるなどいいなど。御検討をよろしくお願いします。

【東専門委員】

意見としてあれなんですけど、別に逃げているわけではないですが、このオリンピックのツアーを造成できる会社というのがかなり厳しく、オフィシャルエージェントしかできないことになっています。

手配旅行であればどの会社でもできるんですけど、やはりその辺のところはオフィシャルエージェントが3社ありますので、各社何十億円出しているんですよ。それでオフィシャルになっていますから、各社10億円以上出していますから、そういった意味では、我々はオリンピックの「オ」の字も使ってはいけないんですね。

もちろん頼まれたら手配することはできるのですが、その辺のところはその3社も交えて空手振興課のほうで、いろいろオリンピック委員会とやってみたらいいのかなと思います。

す。

【佐久本専門】

ぜひ子どもたちにそういう機会を与えて。

【東専門委員】

そうですね。もちろん。

【下地部会長】

久しぶりに東さんが困った感じを見たなと思いました。

原田委員。

【原田専門委員】

少し空手とM I C Eから外れてもよろしいですか。

【下地部会長】

はい。

【原田専門委員】

スポーツのことについてお聞きしたいんですけど、前回のときも同じ質問したのですが、素案の中に「スポーツツーリズム」という文言はどこか入ってますでしょうか。もし入っていればページ数を教えていただけたらありがたいのですが、事務局で今素案はお持ちですか。

もし入っていれば、それに加えてぜひ「武道ツーリズム」を併記していただきたいというのが1点です。なければ、ぜひ両方を沖縄の1つの基幹産業として目次の中に項目を起こしていただきなというのが切なる願いです。これだけ空手を含めスポーツで盛り上がっているのに、全く目次にさえ出てこないのは非常に残念だなという感じはしております。

といいますのは、これから奥武山公園にサッカースタジアムができます。沖縄市に1万人規模のアリーナができます。サッカー、バスケットのホームの試合はサッカーで21試合あります。バスケットに至っては30試合。これもし1万人入れれば30万人、サッカーで21万人、51万人がサッカーとバスケットを見るということで、かなりのツーリズムの中でも大きな経済効果が生まれますので、この事実を踏まえて、新しい箱に対する認識を新たにすると同時に、それを最大活用するためのプロモーションはぜひ沖縄県として取り組んでいたければありがたいというのが私の意見です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

スポーツ振興課、少しコメントできますか。

【事務局 金村スポーツ振興課長】

スポーツの観光関連でいうと、1つには「スポーツアイランド沖縄」の形成という部分で、生涯スポーツと競技スポーツ、そのほかにスポーツコンベンションというものがあります。概念としては、スポーツコンベンションの中にスポーツツーリズムも含まれているというところと、あと1つ。

【原田専門委員】

何ページでしょうか。

【事務局 金村スポーツ振興課長】

今のところが377ページの「心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して」の中の380ページのイで「スポーツアイランド沖縄」の形成の中に1つあるというところと、あとは432ページ、3の「希望と活力にあふれる豊かな島を目指して」の中の444ページ、アの「国際的な沖縄観光ブランドの確立」の中で、「スポーツツーリズム、ウェルネスツーリズムなど、従来の沖縄観光に付加価値を加えた魅力あふれる観光を推進し、世界に誇れる沖縄観光ブランドを形成するための取組を行った」沖縄観光ブランドを形成するための取組みを行った」と、このあたりですね。

【原田専門委員】

ありますね。

【事務局 金村スポーツ振興課長】

基本的にはスポーツコンベンションという形で指標をみんな示されているんですが、この中でスポーツツーリズムを捉えているということでございます。

【原田専門委員】

繰り返しになりますが、ぜひ武道ツーリズムを。

というのは、今の議論を聞いていても、やはり外から空手で連れて来ないと、中で盛り上がりながらも真水の経済効果はおきませんので、空手で人を動かす仕組みをつくる武道ツーリズムは非常に重要だと思います。

国の政策とも合致していますので、ぜひそれを書き込んでいただければ。そうすると「スポーツツーリズム」という文言ももう少しそこにフォーカスされてもいいし、あとプロスポーツの振興ですね。そういうアリーナとスタジアムができますので、将来のスポーツツーリズムというものにフォーカスしたような文言がどこかに書き込んでいただければと思

います。できれば項目として起こしていただくのが非常にきれいだなという感じがします。

以上です。ありがとうございました。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは、もう1つ事務局から報告がありますけれども、私からも1点。

MICEについてはさっき東委員からもありましたけれども、これまでの取り組みの成果のところ、大型MICE施設の検討に関してもう少し踏み込んだ記載があってもいいのではないかなと。これを見ていると、大型MICE施設の整備に向けての今の現状がなかなか伝わりきれいなと。これは課題のところにもかかわるかもしれませんが、その工夫が必要ではないかと感じたところがあります。

来年ツーリズムEXPOジャパンを開催する。あとリゾテックの議論の中でも大型の展示場が必要だという議論がずっと出ておりましたので。

【平田副部会長】

その他のところでいいですか。

【下地部会長】

はい。どうぞ。

【平田副部会長】

358ページのところで、文化活動を支える基盤の形成ということで、もしこちらの話がまたきょうのテーマ以外にもあるかなと思ったら、ちょうど358ページに。

【下地部会長】

きょうの資料というよりは本体の。

【平田副部会長】

本体です。ごめんなさい。多分資料がないと思います。

いわゆるここは「文化活動を支える基盤の形成」というところで、僕自身も事態をずっと見ていた節があるんですが、下の40行目に「県立郷土劇場に代わる施設にあり方について検討を行い」という一文が今回入るのかなと思ったら、見事にこの3行にしっかり入ってきていたので、これはどうなっているのかと思っていたら、この間新聞で見たら議会で部長が答弁をしたということが出ていたので、この辺の部分に関してこれは文言を入れるということは、まさに整備に関して今後もしっかり進めていくという県側の方針、方向性というのは考えていいのでしょうか。

プラス、先ほど空手振興課に質問した2つの質問に対する答えもできればいただければと思います。予算と何班があるか。

【下地部会長】

お答えできますか。

空手振興課から。

【事務局 山川空手振興課長】

概算ですけれども、1億7,000万円弱ぐらいです。

【平田副部会長】

1億7,000万円。

【事務局 山川空手振興課長】

はい。指定管理料を除いた事業費ベースで1億7,000万円弱です。

あと、班の設置は1班です。

【平田副部会長】

1班。名前は何と仰うのですか。

【事務局 山川空手振興課長】

空手振興班と言います。

【平田副部会長】

なるほど。何名ぐらいですか。

【事務局 山川空手振興課長】

正職員は7名、非常勤・嘱託を含めて全部で13名います。

【平田副部会長】

7名にプラス6名。

【事務局 山川空手振興課長】

はい。7プラス6です。

【平田副部会長】

わかりました。ありがとうございました。

【下地部会長】

では、文化観光スポーツ部長、コメントが。

【平田副部会長】

できる範囲で構いません。

【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】

ありがとうございます。確かに9月議会で質問がございまして答弁をしております。

答弁では、郷土劇場にかわる施設のあり方について検討を行いまして、浦添市にある国立劇場おきなわを中心とするエリアに文化発信交流拠点を整備する基本方針を策定しました。

基本計画では、具体的な整備場所を組踊公園としておりますと、道路公園は浦添市の都市公園であることから現在調整を進めておりまして、昨年11月に実施計画案として策定をいたしました。現在、浦添市など関係機関と調整を進めておりまして、実施計画の策定に向けて引き続き取り組んでまいりという答弁をしているところでございます。

あと、きょうの話を少しさせていただきたいと思います。

きょうは、空手を中心にたくさんの御意見をいただきました。まさに空手が我々が誇る伝統文化であり、またスポーツも含めて非常に可能性を持っているというところで、佐久本委員を中心にいろいろな方策について御提言をいただいたと思っております。

また、スポーツツーリズムについてもしっかりと取り組むようにという御意見があったと思います。

一方、ミゲール(・ダルーズ専門)委員からも、なぜこんなに空手が大事なのに、足元である沖縄県民にもっとしっかり支えてもらう、しっかり周知する。あるいは、なぜこういったイベントが必要であるかというのを、まず我々の足元の県民向け、子ども向けにもっと考える必要があるのではないかという御意見だったと思います。

そういう意味では、本当に空手の持つ可能性をさらに広げていくための施策と、それをしっかり支えるための県民向けのいろいろな取り組みが非常に大事ではないかと、きょう感じました。

また、大型MICE施設につきましては、確かに本来なら完成間近で来年のツーリズムEXPOジャパンを迎えるということだったのかもしれませんが、御案内のとおり国との調整が進まず再度財源等を含めて検討している状況でございます。

ただ、場所も含めまして、東海岸への大型MICE施設整備についての方針は変えておりませんので、今後そういうところはしっかり取り組んでまいりたいと思いますので、東委員から激励もございましたけれども、民間の方々からの御支援をいただきながらまた進めていければと感じた次第です。

また、それぞれ自主財源の話や祭りの話などいろいろと御提言をいただきましたので、

しっかり次の振計に向けては整理が必要だろうと思いますし、また、スポーツツーリズムの目次につきましては、形の上では、今回は平成24年度に策定した基本計画の総点検でございますので、基本それをベースに今回総点検をさせていただきますので、次の振計を立ち上げるときにどういう整理をするかというところでの作業をしておりますので、その辺は御理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

【下地部会長】

ありがとうございました。

時間が短くなってきましたので先に進めたいと思っておりますけれども、先ほど佐久本委員が言っていた空手オリンピックについては、JTAが空手ジェットという形で支援をしているということもありますから、何らかの形でそういった子どもたちの夢をかなえる部分として、関係者が少し話し合いをすれば一歩前進をするのかなとは思っております。

それでは、時間が限られておりますので、事務局から審議報告書についての説明を手短にお願いします。

②文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)について

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

時間が押しておりますので、次第1の②文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)についての御説明を簡単にさせていただきますと思います。お手元に配付しております文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)についてお手元の御用意いただければと思います。資料番号がついていない、全部で26ページでつづられているものになります。

この資料につきましては、次回最終回になりますが、5回目の部会において御審議いただく予定の報告書(案)でございます。きょうお配りしているものは、あくまでも現時点の報告書(案)でございますので、これから簡単に御説明いたします。

別紙1～3につきましてはきょうの御意見も含めて、あと他部会で並行して審議が進められておりますので、そういったところからまた少し追加があることもありますので、まだ完成版ではないということで御了承いただければと思います。この報告書(案)が本部会の審議結果をとりまとめたものと御理解いただければと思います。

それでは、簡単に構成を御説明させていただきますと思います。

表紙をめくっていただきまして、2ページ目をご覧ください。こちら報告書の目次となっております。

1の本報告書の位置づけから、2の部会の概要、3が審議結果という形になっております。

めくっていただきまして3ページ目、こちらは本報告書の位置づけということで、この総点検報告書の素案を、この文化観光スポーツ部会において審議をした審議結果をとりまとめたものという形で位置づけられております。

2は、部会の概要ということで所掌している事務、それから調査審議の箇所という形で、第2章、第3章、第4章、第5章というところで、本部会に関連する総点検報告書の該当箇所のリストとなっております。

次に、4ページ目が部会の構成の形になっておりまして、右下の通し番号6ページ目が開催実績、1回目から次の7ページの第5回目までという形で、いつ開催をしたかという記載になってございます。

3番目の文化観光スポーツ部会における調査審議結果でございますが、こちらが3つのパートからなっております。

(1) 沖縄21世紀ビジョン基本計画総点検報告書(素案)に対する修正意見について。これは別紙1となります。

(2) 重要性を増した課題及び新たに生じた課題についての一覧という形で、これが別紙2でございます。

(3) 自由意見についてという形で、とりまとめをするものが別紙3という形になっております。

8ページ以降が、この別紙1から別紙3の現時点でのとりまとめている内容になります。

時間がございませんので一つ一つ御紹介することはできませんが、別紙1は例えば投資番号1で報告書(素案)の本文。こちらは産業振興部会からいただいた御意見になってございますが、報告書(素案)の該当する本文と修正文案という形で右に意見がございまして、その修正理由がございまして、審議結果が現時点では事務局案という形で記載をさせていただいているところでございます。

これが現状としては1番から23ページの44番という形でございまして、右側に事務局としての対応方針です。修正するのか、その原文のままにするのかという形で、現状としての案を記入させていただいております。中にはまだ検討中という項目もございまして、次回第5回の部会までにはこちらを記載させていただきたいと考えております。5回目の部会の中で皆様に確認をいただき、御意見を頂戴できればと考えております。

幾つか御紹介をする予定だったのですが、時間の関係上割愛させていただきまして、別紙2の御説明をさせていただきたいと思います。

24ページは、重要性を増した課題及び新たに生じた課題についてでございます。

①重要性を増した課題というのは、現行の計画策定時から取り組みは進展しているものの、外部環境の変化等によりまして、この部会の中で、あるいは議論の中で喫緊の課題として提起された課題を記載することとなっております。

また、②新たに生じた課題につきましては、外部環境の変化等により、沖縄21世紀ビジョン基本計画の策定以降に新たに認知された課題を記載することとなっております。

それぞれの課題の抽出に当たりましては下にございます。

1番目、委員及び専門委員から提出された意見並びに会議中の発言の中から、重要性を増した課題及び新たな課題として特定される事項については、議事録の精査等も含めまして整理してこちらに記載するという形で考えております。

どちらか判断が難しい場合につきましては、新たに生じた課題という形で区分をするという形でしております。

2番目の分野について、第2章のこれまでの沖縄振興の分野別検証の見出しがこちらから選択をして記載する形になっております。こちらは今回の審議の中では課題の抽出という形になります。今後の対応につきましては、今後次の新たな計画策定に当たってこれを踏まえて議論していく形になりますので、そういった資料となっております。

25ページは記入例となっております。重要性を増した課題、今ほかの部会からの事例を記載をさせていただいておりますが、こういった形で本部会の中で審議された中から抽出意をして、次回一覧として御提示させていただきたいと考えております。

最後に、別紙3です。26ページをお開きください。

こちらは、報告書(素案)に対する修正意見以外の意見について自由意見としてとりまとめをしております。

内容としまして、文化の項目で2つほどあげさせていただいておりますが、こちら当部会の當山委員から以前に御提出された意見を例示として御紹介させていただいております。こういった別紙1から別紙3を、第5回の部会の中で審議内容について議事録等を精査した上で整理して、お示しをさせていただきたいと考えておりますので、次回はページがいろいろなところにもわたるかと思っておりますので、ぜひ報告書(素案)のぶ厚いバージョンの冊子も御準備いただいて御意見等を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からの説明は以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

次回が最終ということでとりまとめに入っていきますけれども、本日お話ができなかった分があれば、また第5回でも強調していただければと思います。

きょうは空手の部分を中心でありましたが、文化・観光・スポーツ交流と幅広い分野をこの部会で議論していますので、若干不安なのは消化不良になっていないかと。もっと幅広く取り上げて、記載内容等についてもコメントが必要なのかなという気がしますけれども、重要なところについてはなるべく漏れなく御発言をいただければと思っております。

観光の分野につきましては、これまでの議論もありますが、来年ツーリズムEXPOジャパンが沖縄開催ということで、これまでの観光を振り返って今後の沖縄観光のあり方を議論する場にもなっていきますし、世界的には今回の大阪でも観光大臣会合等ではサステイナブルツーリズム的な部分、これは今沖縄でもいろいろな地域ごとに観光客の増加に伴う問題等も指摘をされておりますが、サステイナブルツーリズムやレスポンシブルツーリズム、SDGsと、これまでこの計画をつくった段階ではあまり議論になっていなかった部分も出てきていますし、世界観光機関(UNWTO)の事務総長さんからは、来年沖縄でのツーリズムEXPOに関しては、ルーラーツーリズムとエコツーリズムをUNWTOとしては中心に据えてお話をしていきたいと。

これは、これまで世界的にも一部都市部に観光客が相当集中してきた、そういう流れから持続的な観光にするためにもう少し視点を変えたいという意向だと思っておりますが、まさにそういう意味では沖縄で開催する意義というのも大きく出てきています。そのツーリズムEXPOは1つは目標がありますから、文化もスポーツも交流的な視点も盛り込んで、このEXPOに臨むことが大事ではないかと思っております。

最後の会議の日程等についても後ほど説明があるかもしれませんが、本日の部会につきましてはこれで終了として、事務局にお戻しをしたいと思います。

皆さん、御協力どうもありがとうございました。

2. 事務連絡(今後の日程等)

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

下地部会長、どうもありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては、長時間の御審議まことにありがとうございました。

本日いただきました御意見を踏まえまして、第5回は先ほど御説明を差しあげました審議結果報告書(素案)を御議論いただきまして、とりまとめをしていきたいと考えております。

次回の第5回の部会は、令和元年11月20日・水曜日、本日と同じ15時から17時、この場所で予定をさせていただいております。後日、正式な通知でお知らせいたしますので、日程調整をよろしく願いいたします。

また、本日いただいた御意見、次の部会までにここはぜひというところで御意見がございましたら、なるべく1週間前までに修正の意見等ございましたら、事務局までお声かけいただければと思います。

それでは、本日の沖縄県振興審議会第4回文化観光スポーツ部会は、これもちまして終了とさせていただきます。

委員の皆様、本日はお忙しい中御出席いただき、ありがとうございました。

3. 閉会